

琵琶湖湖岸域の生物多様性保全に向けて

「湖岸生態系の保全・修復および管理に関する政策課題研究」(2008年－2010年)

コーディネーター:金子 有子

本研究は、琵琶湖と周辺水域の湖岸域における生物多様性と生物生息環境の実態把握、およびその成立・変遷要因に対する科学的解釈から、湖岸域の生物多様性保全に寄与する管理指針の提示を目的としています。湖岸地形の復元解析等だけでなく、多種多様な環境情報の集約化や成果公開のためのツールとしても GIS を活用しています。

研究の概要

琵琶湖は世界 3 番目の歴史を持つ古代湖として豊かな固有生物相を育んできた淡水生物の宝庫です。また、ラムサール条約登録湿地としての価値や湖岸植物相の学術的価値も高く評価されています。一方、滋賀県の生物多様性は近年も急速に減少し続けており(図1)、固有種を含む貴重種の保護は、琵琶湖の社会・文化・学術的価値を保持する上で喫緊の課題と言えます。

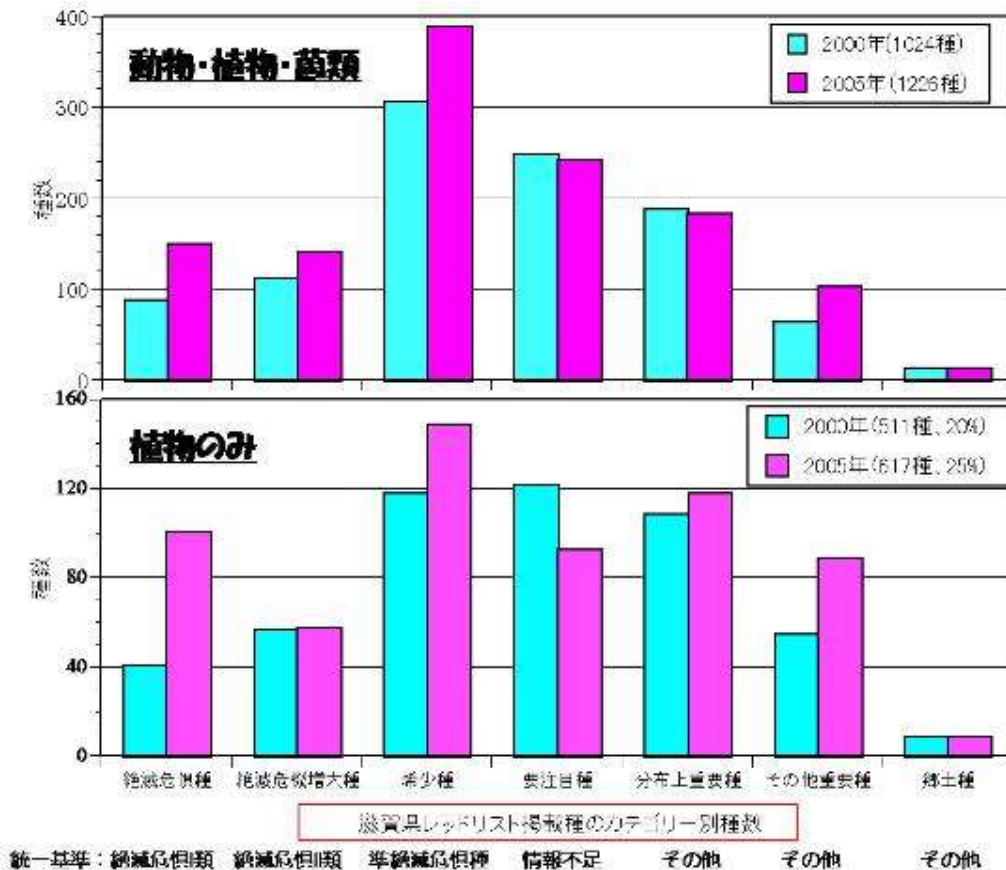


図 1

本研究では、状況把握として、生物と土地利用のモニタリングや GIS を用いた地形解析を実施し、保全の方策として、個々の種の保全と生態系の修復における指針作成を目指しています(図 2)。

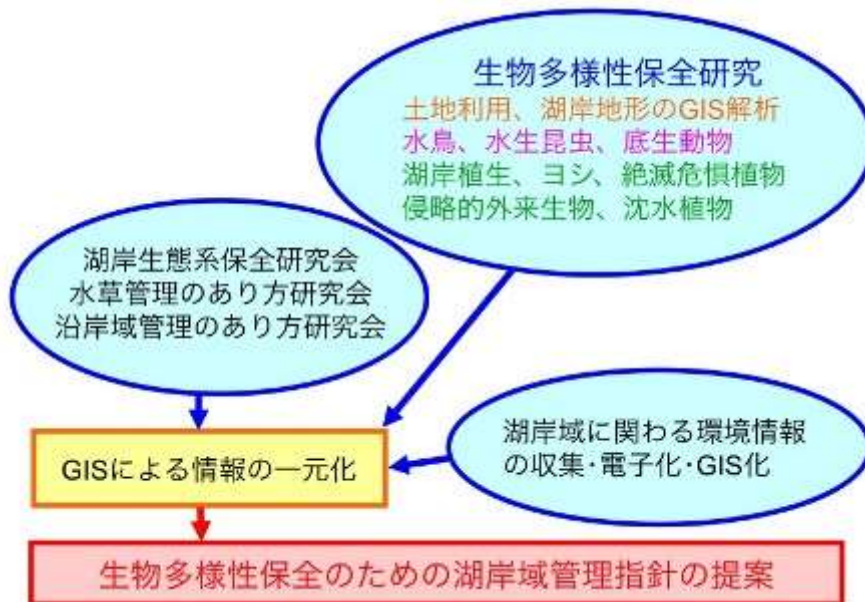


図 2